

[ミュート]  
***muto***

*Museum & Trip Magazine.*

III  
**NIPPONIA  
HOTEL**

八女福島 商家町  
KITAYA BETTEI

[ ミュートの特集 ]

日本茶を五感で味わう一泊二日

茶葉の名産地・八女に息づく  
日本の日常を再発見

## Introduction

八女の伝統的な商家で  
一泊二日のラグジュアリーステイ

福岡・八女は元々福岡城の城下町として栄えた町で、1620年の福岡城廃城後は街道沿いの交通の要衝であることから、商家町として発展した。現在八女本町を中心に残存する白壁の町並みからは当時の面影を見ることができる。そんな歴史ある八女に、今年、新たな宿泊施設が完成した。それが「NIPPONIA HOTEL 八女福島 商家町」。八女の伝統的な商家「福島清造」と「旧大坪茶舗」をリノベーションしたこの宿泊施設には、2棟合わせて1日7組しか宿泊できない。そんな贅沢な空間で、八女を味わい八女に触れる1日過ごしてみた。



■ NIPPONIA HOTEL

八女福島 商家町

YAME FUKUSHIMA  
MERCHANT TOWN

Operated by VMG

福岡県八女市本町204  
TEL.0120-210-289(VMG総合窓口 11:00~20:00)  
IN 15:00~21:00 / OUT 12:00  
www.yame-fukushimastay.com



Spend a day in Yame city

日本茶を五感で味わう一泊二日

八女に誕生した宿泊施設「NIPPONIA HOTEL 八女福島 商家町」を拠点に  
歴史ある茶葉の産地に息づく日本の日常を再発見。



### CASUAL ROOM

102号室は二人利用のカジュアルタイプ。とはいえ、ベッドやシーツ、室内にある家具などは上質なものが設えられているので、ゆったりと落ち着いた大人の空間となっている。リビングに配された印象的なソファは、自分だけの時間を楽しむのうってつけ。ここでゆっくりするだけの1日という贅沢な時間を過ごすこともできる。



### STANDARD ROOM

103号室は2階に設置、開放感があるこちらからの眺めもこの施設のおススメポイントの一つ。当時のまま残る床の間には福岡県の作家作品などが季節に合わせて飾られている。畳の部屋は布団を敷くこともできるので、大人4名でも広々と滞在できるはず。もちろんファミリー利用も可能。また、家具は大川で作られたものをメインに配置している。



### EXECUTIVE ROOM

101号室となるこの客室は入ってすぐに檜風呂が設けられている。風呂でも八女を感じてもらうため、茶葉を入れた入浴袋も用意。部屋に入ると目の前に庭が広がり、その景観がくつろぎの空間を演出する。また建物の歴史や個性をそのまま残したいという考えから、使える梁や柱などはなるべく壊さず、あるものをどう見せるかを試行錯誤しリノベーション。庭に続く縁側や扉なども補修して当時のまま使われている。



### Amenity

#### こだわりのアメニティ

アメニティへのこだわりも徹底している。各客室にはリラックスできる浴衣や八女茶も用意。また、オーガニックにこだわったスキンケアアイテムなども見逃さない。



使っているという点。窓に付けられているガラスも当時のものをなるべく残し、欄間や床の間といった和の家屋には欠かせない設えも一部を改修しつつ残している。現代の合理的なライフスタイルにはない当時の空間の使い方もそのまま残されているので、部屋全体にゆとりを感じることが出来る。これこそ古民家再生の真骨頂と言えるかもしれない。

そして、古民家ならではの不便さを忘れさせる快適な設備も見逃せない。全室に用意されているベッドには世界各国の一流ホテルで使用されているマットレスを採用。もちろんシーツや枕カバーなどのリネン類もこだわりのものを使用するという徹底ぶり。また、それぞれの部屋には風呂が備えられ、プライベートな空間を二層楽しむことができる。故郷のような懐かしみとこの上ない贅沢が絶妙にマッチする客室が、八女の滞在をより味わい深いものにしてくれるはず。

白壁が印象的な古く家が並ぶ八女本町にある「NIPPONIA HOTEL 八女福島商家」の「KITAYA BETTEL」。こちらは元々「福島酒造」という八女を代表する酒蔵「喜多屋」から分家した酒蔵だった場所。昔ながらの土間にはプロントがあり、「こしやチェンマイ」をしてから部屋へと案内される。部屋は「KITAYA BETTEL」も室、ここから徒歩約10分ほどの場所にある「OTUBO TIAHO」に4室が用意されている。

KITAYA BETTELの土間から館内にある細い通路に入ると、シンブルで使われるデザインの名部屋「CASUAL ROOM」があり、その奥には美しい庭が窓の外に広がる「EXECUTIVE ROOM」が配されている。さらに二階には庭やテラスを見下ろす解放的な「STANDARD ROOM」があり、それぞれの個性を活かした部屋で来訪者にくつろぎの時間を提供する。特徴的なのは、元あった商家の窓枠や梁といった素材はなるべく当時のまま

### Room

故郷のような温もりと  
現代の利便性を併せ持つ客室



### 八女茶いろいろ

八女茶も飲み比べができるよう数種類用意されている。また、料理に合わせた日本酒も用意されているので、ぜひ試してほしい。(写真は左から玉露、煎茶、紅茶、ほうじ茶)



### シンプルなコンソメスープ

鷹節を効かせたコンソメスープに、卵黄・牛乳・クリームなどを使ったフランが浮かぶ一風変わったスープ料理。茶碗蒸し感覚でつると食べられるのが面白い。



### 季節野菜のガルグイユ

地元の野菜だけを使った、温野菜と冷野菜が混在する食感で楽しい野菜料理。ソースとして味わうピュレにも野菜が使用されている。旬の野菜がダイレクトに味わえる贅沢な一品。



### 船小屋牛のグリル 合わせバターとシンプルなジュのソース

船小屋牛のサーロインのグリル。レアにグリルされた極上のサーロインは、牛肉の出汁を使ったソースとメルトドテルバター(香草バター)を合わせることでコクを引き出している。



### Restaurant LE UN

レストランには全32席用意され、宿泊者以外も利用可能(要予約)。  
[営業時間]ランチ11:30~15:00(LO.14:00)、ディナー17:30~22:00(LO.20:00) ※ランチ火曜定休

※写真は3月26日時点のもので、時期や仕入れによって内容は変わります。



### 八女抹茶のシューベニエと季節のフルーツ

シュー生地を揚げたものに自家製のアイスクリームと柚子のジャムを添えた爽やかなデザート。ほんのりと感じる抹茶の苦味もアクセントになり、すっきりとした味わいに。



### 魚介類の軽いラグー 抹茶のブイヤベース仕立て

魚料理の代表格ブイヤベースと八女の抹茶が融合。色味が薄くすっきりとした味わいの出汁を煎茶で焙じ、最後に抹茶を加えることで、茶の風味がより強く感じられる。



### 塩さばのほうじ茶燻製

脂の乗った玄界灘のさばを使った前菜。塩さばをほうじ茶で燻製することで、ツヤのあるさばに仕上げられている。さばの上のサワークリームがアクセントに、地元の野菜のピクルスも見逃せない。



## Dining

# 八女の食材を主役にした スタイルに捉われない“八女料理”を味わう



グランシェフ  
石井 之悠

スイスのグランメゾンで活躍し、帰国後数々の賞を受賞した関西フレンチの次代を牽引する重鎮。「NIPPONIA HOTEL」の料理をプロデュースする傍ら、フレンチの伝統の継承・発展のため精力的に活動している。

こちらの施設は宿泊スペースはもちろんのこと、レストランスペースも見逃せない。こちらで提供されるのは、八女ならではの食材を使う旬の料理。味だけではなく、八女の食文化やその背景、そして八女の豊かな自然まで感じられる料理はこの宿の真骨頂といえる。

そんな食で八女を表現する「LE UN」のグランシェフを務める石井之悠さんに、食事のテーマについて伺った。

「地のお野菜と八女を代表するお茶のマリアージュをテーマにした料理を提供します。お茶に関してはフレイバーを楽しんでいただくのはもちろんですが、もう少し深く掘り下げて、お茶で燻製したり、食材の一部に使用するなど、お料理の構築そのものをお茶をベースにしています。また、和のテイストにより過ぎないように食器もシンプルなものだけを採用。目でも八女茶の美しい緑を感じていただけたらと思います」。

石井さんが自ら現地に赴き仕入れたこだわり地の食材を使った料理の数々は、どんなスタイルになるのだろうか。

「料理のスタイルについてはあまりこだわっていません。食材が活かせる調理をしているので、それぞれの料理に和食やイタリアン、フレンチといった様々な技術が融合しています。あえて言うなら『八女料理』となりますね」。

また石井さんは、福岡には良い食材がたくさんあるので食材に困ることはないと話します。そんな彼が今後チャレンジしたいのは川魚を使った料理。現在、ランチでは川魚料理が出されているが、ディナーにも鮎やカワマスといった川魚の使った料理を出していきたいとのこと。ここが発信源となり、八女の食の素晴らしさが全国に広がるはず。

### Bar

#### 八女の酒蔵・喜多屋が運営する 日本酒バーで夜のひと時を

八女を代表する酒蔵・喜多屋直営のバーもこの目玉の一つ。ここでは無濾過生原酒ラインとなる「グラン・キタヤ」シリーズやスパークリングクリスタルなど希少な商品も味わえる。



### Morning & Lunch

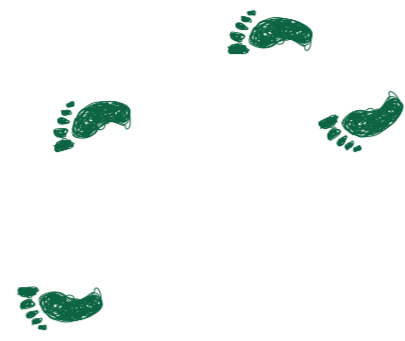
#### 朝食とランチも八女にこだわる メニューでおもてなし

宿泊者のみに提供される朝食(右)は、なんと八女茶を贅沢に使うお茶漬け。ランチ(中・左)はブリフィックススタイルで、メインを魚料理と肉料理から選ぶことができる。



Item

国内外から集まるさまざまな作品が  
ここに訪れた人を出迎える



不撓楽天達磨(たおれんだるま)

大分県日田市の家具メーカー「ID HOUSE」が制作した家具の製造過程で出る木片や廃材を利用して作られた達磨。「人生七転八起\*失敗しても屈せず」という想いが込められている。



竹の器

竹の節を利用して作られた器は、大分県で活動する竹細作家・中村さとみさんの作品。さまざまな大きさの器は手に馴染み、心地良い感触を楽しむことができる。



気泡入りペーパーウェイト

1520度の超高温度域でガラスを生成し、硬質ガラスを製造する山口県のガラス工房「萩ガラス工房」のペーパーウェイト。気泡が入るのっぺりとした形にユーモアを感じる。



久留米緋のクッションカバー

久留米緋の織元「藍染工房」の山村健さんがデザインしたクッションカバー。大きな藍の柄がインパクトあるカバーで、天然藍の美しい色合いがどんな部屋にもマッチする。



harukami [cobble]

福井県で1500年という長い歴史を持つ越前和紙の工房「やなせ和紙」が制作した丈夫でやさしい風合いの箱に仕立てた作品。河原にころがっている小石のようなフォルムが印象的。



台付きつる首

型を用いず息を吹き込んで宙空で成形する宙吹きをガラスの友平を使って行う「ジャパン吹き」で作る「肥前びどろ」の伝統的な「台付きつる首」の花器。繊細なシルエットが特徴。

Shop

八女をアートで刺激する  
唯一無二の場所



宿泊施設という枠には収まらず、文化の発信拠点としても重要な役割を担う NIPPONIA HOTEL 八女福島 商家町。古い伝統を軸に現代の衣食住を発信するこの施設が、茶の町・八女をさらに面白くするだろう。

OHAKO  
福岡県八女市本町21-1  
TEL.080-6421-4542  
※営業は7月から予定

「この施設には福岡県内はもちろん、全国、そして各国からもお客様がいらっしやるので、その人たちに刺激を与えようというのを打ち出した」と考えています。今検討しているのはアートの工芸作品で来られたお客様を迎えたいということ。こちらに来られるお客様は、日常とは違う豊かな時間を求められていると思います。だからこそ、面白みのある非日常性のあるものでもてなしてあげたい。また地元の方にも、日本や世界の刺激的なアートを発信し、八女の文化向上を促進していきたいです」と白水さんは話す。

6月開業予定のNIPPONIA HOTEL 八女福島 商家町第二の施設「OTUBO TAHO」の館内には4つの客室ギャラリー兼ショウムの「OHAKO」が併設してある。

このOHAKOを運営するのは、九州筑後エリアのものをづくりを発信するアンテナショップ「うなぎの寝床」。うなぎの寝床では九州筑後のものづくりの技術を生かした生活雑貨やファッションアイテムなどを中心に展開していたが、このショップではどんなものを見ることができるとか、代表の白水高広さんに伺ってみました。

# ■ NIPPONIA

「NIPPONIA HOTEL」が描く  
未来のふるさとのカタチ

VMG HOTELS & UNIQUE VENUES



関西 / 兵庫 丹波篠山  
福住宿場町ホテル NIPPONIA

兵庫県丹波篠山市福住にある明治時代後期に建てられた邸宅を改修。目の前に緑豊かな丹波の山々や田園風景が広がる。



関西 / 兵庫 丹波篠山  
篠山城下町ホテル NIPPONIA

兵庫県丹波篠山市の江戸時代に建築された古民家4軒を改装した複合商業施設。城下町全体を一つのホテルと見立てている。



関東 / 千葉  
佐原商家町ホテル NIPPONIA

関東最初の重要伝統的建造物群保存地区に指定された商家町・佐原の中心にある「中村屋商店」に構えられた宿泊施設。



関西 / 奈良 ならまち  
NIPPONIA HOTEL 奈良 ならまち

明治創業の豊澤酒造の元酒造場および民家を改修。元興寺の旧境内であるならまちにあり、今も古い町並みが残っている。



関西 / 兵庫 朝来  
竹田城 城下町 ホテルEN

日本のマチュピチュと言われ国史跡に指定されている山城・竹田城跡の麓にある酒造場をリノベートしたホテル。



関西 / 兵庫 豊岡  
オーベルジュ豊岡1925

登録文化財に登録されている近代化遺産である兵庫県農工銀行豊岡支店(旧豊岡市役所南庁舎)を再生した施設。



九州 / 福岡 太宰府  
HOTEL CULTIA 太宰府

太宰府天満宮の境内のすぐ側にフロントを構え、江戸末期から昭和にかけて三代に渡り活躍した絵師の元住家をリノベート。



中国 / 広島 竹原  
NIPPONIA HOTEL 竹原 製塩町

塩で財を成した浜田那たちによってつくられた日本で唯一、重要伝統的建造物群保存地区に指定される製塩町の宿泊施設。



バリューマネジメント株式会社  
Value Management Co., Ltd.

<https://www.vmc.co.jp/>

今回取材した八女を含め、日本には100万棟にも上る歴史的建造物がある。そして、それらは美しい街並みを形成し、当時の文化や生活習慣を今に残す。しかし一方で人口減少による収縮により、維持・保存が困難になりつつあるという現状。そんな歴史的町並みを民間のビジネスで利用活用し、維持継続しようとするのがNIPPONIA HOTEL 八女 福島 商家町を展開する「バリューマネジメント」の事業。

歴史的建造物・伝統建築物群保存地区を活用するためには、その場所に今まではなかった付加価値を創造する必要がある。バリューマネジメントはそのための方法の一つに、土地の文化を体験させる観光利用を提案。その土地の文化を体験するとは、地の食を味わうなどのコンテンツを楽しむことに加え、生活を体験することにも含まれる。つまり、NIPPONIA HOTEL 八女 福島 商家町のようにリノベートした歴史的建造物に滞在するということは、当時のその土地の暮らしを体験することなのだ。

NIPPONIA HOTEL 八女 福島 商家町の誕生により新たな価値が生まれた八女は、今後新しい人の流れができ、そこから新たな文化が芽吹くだろう。そのワクワクとさせる空気をぜひ現地で体感してほしい。

## Sightseeing

「NIPPONIA HOTEL 八女 福島 商家町」から  
八女の歴史と文化に触れられる場所へ



八女市横町家交流館  
八女市本町94番地  
TEL.0943-23-4311  
【開館時間】10:00～17:00  
【休館日】月曜日(月曜日が休日の場合その翌日)  
12月28日～1月4日

NIPPONIA HOTEL 八女 福島 商家町はお籠り旅が存分に楽しめる宿泊施設なのは言わずもがな。とはいえ、せっかく八女を訪れたのだから、八女の良さをぜひ町でも味わってほしい。

ここで紹介するのは、八女を代表する観光地だ。このエリアには白壁の町並みからもわかるように歴史的な建物も多く現存している。例えば、NIPPONIA HOTEL 八女 福島 商家町のすぐ近くにある「堺屋」は明治からある旧家で、現在も数寄屋造りの主屋や伝統的な日本庭園を鑑賞することができる。また、八女や筑後エリアの工芸に触れたいという方には八女伝統工芸館がおすすめ。さまざまな展示のほか体験教室もあるので、八女の職人たちが持つ高い技術を体感してほしい。また、八女にゆかりのある画家・坂本繁二郎のアトリエの跡や資料館なども点在しているのでそれを目指して散策するのもいいだろう。もちろん八女を代表する風景の一つ大茶園も見逃さない。

八女では2020年から一人乗り電気自動車「Hamo」を導入し、散策をサポートしている。Hamoは「八女市横町家交流館」でレンタルできるので、これを利用して八女の自然も文化も歴史も存分に楽しんでほしい。

## 八女伝統工芸館



Hamo  
八女 福島 商家町から  
電気自動車  
で約2分

国が指定する伝統的工芸品の仏壇・提灯・久留米餅や県が指定する特産民芸品の石灯ろう・手すき和紙・矢・竹細工・和こま・焼き物・木工品など、八女や筑後地域を代表する工芸品を中心に展示紹介する施設。また、工芸品や特産品の販売コーナーや工芸や民芸の体験教室などもある。

## 堺屋(旧木下邸)



Hamo  
八女 福島 商家町から  
電気自動車  
で約1分

木下家は江戸期から始まり、「堺屋」の屋号で代々酒造業を営みながら大きく栄えた旧家。明治41年完成の「離れ座敷」は、屋久杉の一枚板で造られた欄間や紫樟の床柱などが見られ、贅沢な造りとなっている。当時は主屋の離れ座敷として貴賓客のための応接や宿泊に使われていたのだそう。

## 八女中央大茶園



Hamo  
八女 福島 商家町から  
電気自動車  
で約12分

ゆるやかな傾斜の丘陵地に広がる約70ヘクタールの大茶園は、福岡を代表する八女茶の一大生産地。ここは「県営パイロット事業」として103ヘクタールの山林を開発し作られた茶畑で、その雄大な景色は全国的にも有名。頂上の展望所からは晴れていれば有明海や島原半島など望める。

## 坂本繁二郎アトリエ



Hamo  
八女 福島 商家町から  
電気自動車  
で約4分

画家の坂本繁二郎は、1931年(昭和6年)八女市福富に自宅を構え、アトリエを八女市緒玉の直地に建築した。現存する建物は、1965年(昭和40年)建設の収蔵庫だったもの。アトリエは、久留米市石橋文化センターへ移築されているが、当敷地内には繁二郎画伯の墓碑が残っている。

## Rental

### 一人乗り電気自動車で八女の町を散策

TOYOTAが展開する新しい移動サービス「Ha:mo(ハーモ)」で、快適に八女の町を散策。Ha:moは一人乗りの超小型電気自動車で、狭い道でもぐんぐん進む事ができる。また、小回りが効くので駐車もラクラクでき、運転に不慣れでも安心して扱える。



### 【レンタル方法】

Ha:moは「八女市横町家交流館」でレンタルする事ができる。レンタルの際は免許証も必要なので忘れずに。  
【貸出場所】八女市横町家交流館  
【貸出料金】1,000円 / 60分(税別、原則前日までに予約)  
<https://hamo-travel.com/area/daiyaen/>